

移動市長室



てんばいちゅうがっこうせいとかい
天拝中学校生徒会

K³(気づき×考え×行動する)
一人一人が意識し、
互いに高め合える学校へ

通算109回目となる移動市長室を、10月27日(水)に天拝中学校図書室で開催し、天拝中学校第39期生徒会の役員12人と懇談を行いました。

強みは「生徒数の少なさ」

天拝中学校の生徒数は341人。市内で最も生徒数が少ない中学校です。そのため、学年全員の顔と名前が分かるだけでなく、学年を越えて仲が良いという生徒の皆さん。「人数が少ないからこそ生徒同士の絆が深い。天拝中学校のよさだと思えます」と誇らしげに話します。

その強みを生かして、体育祭や文化発表会などの学校行事も密を避けながら開催できたといえます。生徒一人一人が活躍でき、天拝中学校の一体感が強まった貴重な機会だったとうれしそうに報告してくれました。

活動報告の途中で、文化発表会で行った天拝中学校の名物「博多にわか」や、体育会で女子生



徒が躍ったダンスが披露されました。いきいきとしたパフォーマンスに、藤田市長をはじめ参加した市職員も元気を分けてもらいました。

できることを全力で

スローガン「K³(ケイキューブ)」は、「気づく」「考える」「行動する」という三つの言葉の頭文字を取って設定されました。三つの要素を足すのではなく、掛け合わせることで成果を何倍にも高めていくという願いが込められています。

昨年から続く感染症の影響で、会議や報告など対面での活動ができず、悩みも多くなっている。しかし、視点を変え、対面が難しければ非対面での活動に力を入れようと考えた皆さん。放送や掲示物などを充実させ、生徒会の取り組みを発信していきました。スローガンを実践し、できないことなく、できることを全力で行う生徒会の皆さんの前向きな姿勢が伝わってきました。

後輩へつないでいく思い

理想の天拝中学校を目指し、できることに全力で取り組んできた生徒会の皆さん。間もなく任期を終えます。自分たちが培ってきた「気付き、考え、行動する」力を、これからは生徒会の後輩たちに引き継いでいきたいと話しました。

生徒会長の村尾さんは「中学校は仲間と三年間を過ごす大切な場所です。後輩たちには、よりよい天拝中学校を目指して生徒会活動をしてほしいと思います。今後は私たちもサポートをしていきたいです」と後輩への思いを語りました。

大人になる皆さんへ

懇談の後半では、生徒会の皆さんから市への質問を受け、藤田市長が回答しました。市役所新庁舎の防災拠点としての機能や、市が行った感染症対策などのほか、民法改正により成人年齢が18歳となることに触れ、「大人の責任を果たせる自分になるために、今何をすべきか考え、努力をしてほしいと思います。そして世の役に立つ人になってください」と激励の言葉を送りました。

参加者からの感想

- ・今まで知らなかったことをたくさん知ることができて、自分の住んでいるまちがもっと好きになりました。
- ・このような機会をつくっていただいたことに感謝して、これからの天拝中を引っ張っていこうという気持ちが深まりました。



藤田市長の一言



皆さんの発表を聞いて、感染症の影響で何もできない中でもそれを乗り越えてやっていこうというたくましさに感心しました。

悲しいことも悔しいことも、これらの人生にはたくさん待ち構えています。その困難を自分の力で乗り越えていくために、この学校でしっかり心と身体と頭を鍛えて、チャレンジ精神を持って頑張っていってください。

このような内容の濃い移動市長室をさせていただき、感極まる思いです。この天拝中学校で学んだことを忘れず、幸多き人生を自分の力でつかみ取ってってください。ありがとうございます。